

企業最前線

BUSINESS FRONT LINE

設備投資で「第二の創業期」 を迎える

電機樹脂株式会社

工業用プラスチック製品の加工を手がける電機樹脂(株)(福岡県粕屋町)は、34年前に導入したNC加工機を更新する。同社の事業基盤形成に大きな役割を果たした加工機の入れ替えにより、受注の“幅”を広げることで対応力の強化を図りたい考えだ。

幅広い樹脂への対応力が最大の強み

同社は、プラスチック製機械部品の切削加工を手がけている。配電盤の中に組み込まれる絶縁材料のほか、半導体、液晶、自動車、食品製造装置など、あらゆる分野の機械部品を供給している。

同社のようなプラスチックの切削加工事業は、金型で同形の部品を大量生産する成型加工事業に比べれば、競合企業が少ない分野と言える。しかし、大手企業が九州に進出するにあたり、系列の部品加工会社を引き連れてくるケースも少なくない。

同社は1982年(昭和57年)4月、地場業界に先駆けてNC加工機を導入。短納期、高精度を実現するとともに、小ロット受注にも対応する機動力を身につけた。

さらに、汎用プラスチックなどの「熱可塑性樹脂」から、ベークライト、エポキシガラスといった「熱硬化性樹脂」にいたるまで、性質の異なる樹脂を調達し、加工する高度な技術力を有している。このように、樹脂加工のプロフェッショナル集団として、得意先からの信頼を得てきた。

あらゆる機械部品を扱うが故に、得意先から提示された図面だけでは、用途がつかめないものもあるという。しかし、開発・設計段階から携わることができる案件については、用途に応じ、その機能を最大限に発揮できる材料への変更や、大きさ・厚みの変更によるコストダウン提案なども行う。樹脂加工を知り尽くしているからこそ、為せる業でもある。

補助金を活用して設備投資を実施

同社では今春、34年前に導入したNC加工機の更新を実施する。導入時は、同業者に「そんなものを導入してどうするんだ」と冷やかされた初号機が、同社の“のれん”を構築する役割を終えようとしている。

新たなNC加工機は、加工スペースが従来機の1.5倍に広がるうえ、加工時間の短縮にもつながる。設備投資補助金を活用することもできたという。同社の樋口敏和社長は「製品は、配電盤など完成品の中に隠れてしまうので、つくったものをPRするのは難しい。納期、品質、技術力という“当たり前”をしっかりと遵守しながら、どれだけ受注企業に協力できるか、が勝負だ。設備投資は、そうした“当たり前”を向上させることにつながる」と話す。

同社は、得意先が多業界に分散しているため、景気低迷の波を分散させることができた。今後も、インフラ整備につながる電気設備関連をはじめ、半導体、ロボットなどのバランスを注視しながら受注を伸ばし、新設備を導入する2016年度を「第二創業期」と位置づけ、一層の成長を図りたい考えだ。



複雑形状の精密部品の加工も手がける

会社概要

| | |
|-------|---|
| 商号 | 電機樹脂株式会社 |
| 企業コード | 800388821 |
| 本社所在地 | 福岡県糟屋郡粕屋町仲原1771-2 |
| 代表者 | 樋口 敏和 氏 |
| 電話 | 092-621-6205 |
| 設立 | 1985年4月 |
| 資本金 | 1000万円 |
| 事業内容 | 工業用プラスチック製品・加工業 |
| URL | http://www.dj-kk.co.jp/ |